

8月26日(水)

鷹巣小学校3年生 トウモロコシ収穫

JA女性部鷹巣支部の開設する「こどもふれあい農園」で鷹巣小学校3年生の児童たちがトウモロコシの収穫体験を行いました。この取り組みは農業体験を通して児童達に野菜に興味を持ってもらおうと、食育活動の一環として女性部が毎年行っています。

児童たちは女性部員の手を借りながら大きなトウモロコシを見つけては「なかなか取れてこない」と収穫の難しさも感じていたようです。部員の小塚保子さんは「この畑で育ったトウモロコシは無農薬で甘くておいしいです。家に帰ったらみんなで食べてあとで感想を聞かせてください」と話していました。



大きなトウモロコシを収穫し笑顔を見せる児童

8月28日(金)

フレッシュ部会 料理講習会を開催

JA秋田たかのすフレッシュ部会は、料理講習会を市民ふれあいプラザコムコムで開催し、部会員18人がキウイやバナナなどを使ったフルーツロールケーキを作りました。

この日は、部会員の佐藤昌子さんを講師に、材料や作り方を教わり、卵を卵黄と卵白に分けて混ぜたり焼けた生地フルーツを飾ったり和気あいあいと楽しみました。出来上がったフルーツロールケーキは、いろいろな果物を組み合わせることでアレンジができると好評でした。



ケーキ作りを楽しむ部会員

9月1日(火)

農産物検査員へ辞令交付

令和2年産米の初検査を前に、本店では米の検査業務に従事する「農産物検査員」の辞令交付式が行われ、小笠原組合長より職員22人に辞令が手渡されました。

辞令を受けた職員は農産物検査員として配属先の各検査場所で米の整粒や品位、水分などを検査し、生産者の米に等級を付ける重要な役割を担います。

小笠原組合長は「検査は長期間に渡るが、体調管理と事故の無いよう心がけ公正な目で確実に行ってほしい」と激励の言葉をかけ、職員も検査に向けて意思統一をしました。



小笠原組合長より辞令を受ける職員

9月7・8日(月・火)

産米改良(受検)組合総代会を開催

組合員相互が協力し、品質の改良と良質米の増産を図ることを目的とするJA秋田たかのす産米改良(受検)組合の総代会が北秋田市交流センターと阿仁川あゆセンターで開かれました。総代会には各地区の総代101人が出席し、令和元年度事業報告や令和2年度事業計画など3議案について協議。また、米の初検査を控え、収穫や出荷時の注意事項や受検出荷計画などについて確認しました。

小笠原組合長は「年々米の消費が減少している中、今年は新型コロナウイルスの影響で米の概算金動向は東北各県で厳しいものとなっている。総代の皆様と協力しながら良質米の生産、JA米の販売に取り組んでいきたい」と述べました。

令和元年度事業報告では、新元号になった5月の田植盛期は平年並みの5月22日、田植え期以降天候に恵まれたことで収量は平年より増加し、作況指数は104のやや良、1等米比率90%、集荷実績9,500トン、管内集荷率は96.6%になったと報告されました。

また、総会後には全農秋田県本部米穀部の佐々木透氏より全国的な米在庫の状況や販売概況、今後の見通しなど「米穀情勢」について、児玉徹氏より「令和2年産生育状況と適期刈取りについて」詳しいお話を頂きました。

確認事項

乾燥調整について

- 乾燥機、粳すり機等はきれいに掃除してから作業する。
- 倒伏、虫害の恐れのあるものは、分けて乾燥・調整する。
- 乾燥直後の粳を冷やさずに粳すりすると、肌ずれ米及び胴割米が発生するので、十分放熱してから粳すりを行う。
- 土砂・ガラス片・プラスチック片及び金属片等の異物が混入している場合は、検査を行わない。

玄米目標水分について

玄米水分を15.0%以下(14.0~15%)に仕上げることを目標とする。

網目の統一について

ライスレーダーの網目は1.90mm(LL)以上を使用する。

紙袋の取扱いについて

紙袋の表面には鮮明確実に記入する。尚、元年度紙袋の使用期限は、令和3年3月末まで等。



出荷時の注意事項を確認する生産者(阿仁川あゆセンター)

9月11日(金)

米出荷説明会を開催

令和2年産米の収穫・調整・出荷に関する米出荷説明会が鷹巣管内6会場で開かれました。午後1時から坊沢公民館と七日市基幹センターでそれぞれ説明会が開かれ、26人の生産者が参加しました。担当者は「管内の生育は概ね順調。今後は刈り遅れによる胴割粒や発芽米など品質低下を避けることが重要」と話し、適期刈取りに努めるよう呼びかけました。

このほか、担当者からはJA米の要件や栽培履歴台帳の提出期限などについて説明され、生産者は稲刈りを目前に控え、熱心に耳を傾けていました。



米の搬入方法を入念に確認する生産者